

御教えを出発点として

黎明

発行所

京都市左京区吉田神

楽岡町3

世界教世教黎明会

電(771)2222番

定価1部20円

明主様の御教えが「主神直接の啓示」によるものであり、今日まで何人も説き得なかった来たるべき「新文明構想の指針」を示されたものであることは、先号で申上げた通りであります。

主神の御目的が、人類希望の天国世界、病貧争絶無の真善美の世界の建設におありになることは言うまでもないことであります。この素晴らしい世界をお創りになるために、それ相応の準備、つまり精神物質共に右の世界を形成するに足るだけの条件を揃えられる必要があらなくなったわけでありました。ところが、神様は、その準備として、非常に歳月を要する物質面を先にされたわけでありました。しかし、最早時期来って「物質文化は予定の線にまで発達した今日、ここに神は唯心文化を一挙に飛躍させ、両々相俟って真の文明世界を創造」(「救世教とは何ぞや」)されることになったのであります。

ここで、最も根本的、且つ困難な問題は、長い間眠っていた有神思想を呼び覚ますことでありました。神様は物質文化を発達進歩させるために、神様の存在を無視させ、私共の想念を物質面に向けてこられました。そのために、世の中の人々の大半は唯物科学に魂を奪われ、その影響を更に強く受けて来たり居ります。科学の分野の人々は勿論のことですが、宗教の分野の人々でもさえも、近頃はその傾向が著しくなっていると思しう。過言ではないと思ひます。例えは唯物科学が「科学の分野に非ざる人間生命の問題にまで立入って」(案25)しましても、それに疑問をもつ人はほとんどない現状であります。

この様に、唯物科学に支配されてきた現代の人々に、神様の存在を認識させ、更に神様の御心を掴ませることは、世界中の人々が救われるため、最も根本的なことであり、しかも至難の業とも言えるのであります。その方法として、科学では不可能なこ

とは科学の本質から言っても、また科学に与えられている使命から言っても明白な事であると思ひます。宗教の分野では、現在までの多くの宗教が、教義や戒律を主としてきた訳であります。この方法だけでは困難が伴うことは、現在の宗教の状態を見ればよく分るのであります。勿論、いままでの多くの立派な宗教によって神様の御心を分らせていただいた人々もたくさん居られます。幾多の苦難にあい、血の滲みような葛藤にたえつつ教えを弘通してこられた努力は筆舌につくせないものであり、それによってこの世の中が恵に支配されたまま減りてしまふのを、くいとめられてきたことも忘れてはならないと思ひます。しかし、教義や戒律による方法で、現在の唯物科学・無神思想に支配されて来た人々に、神様の存在を認識させることがいかに困難であるかを認めないわけにはいかないものであります。

浄霊について ④ 会長 多田 光行

明主様の御教えについて

(その2)

「何しろ文化民族の大半は科学に魂を奪われ、神を無視して来た今日、この魂を揺り動かすとしたら、実に驚異の超人力によらねばならないからで、これによって神の存在は確認されるのである。その方法としては奇蹟よりも外はない。勿論、この力こそ主神から伝達される絶対力であるから、如何なる無神主義者と雖も、有神思想に転向するのは勿論であって、ここに精神文化興隆時代に入るのである。その結果、跛行文化は是正され、真の文明世界実現と共に、人類の大苦悩である病氣、貧乏、争いの三大災厄は根本的に解決されるのであって、その為選ばれたのが私であって、このことは今改めて言うのではない、昔から幾多の聖者賢者が予言された処であり、只その時期が到来したまでである」(「救世教とは何ぞや」)「茲に到っては最早文化の進歩に対し、一大転換が行われなければならない天の時となつたのである。其第一歩として、神とされた一々の霊界の存在を普く人類に明示される事となつた。といつても無の存在である以上、其の方法たるや、科学では無論不可能である。そこで未だかつて人類の経験にない程の偉大なる力の発揮である。即ち神の力である。私が長い間唯物主義に固まっていた現代人であるから、納得させるには非常な困難が伴うのであるが、之に對し本教が唯一の方法としての奇蹟がある。即ち本教の浄霊法こそそれである。之によって如何なる無神論者と雖も、一挙に承服せずには措かないからである。従って此事が普く人類社会に知れんとして、現代文化は百八十年の転換を、余儀なくされるであろう」(案出)と、明主様はお説き下さって居ります。更に、

「宗教と奇蹟は切っても切れない関係にある事は、昔から幾多の文獻によっても明らかである。もし奇蹟のない宗教でありとすれば、それは最早宗教とは言われない。何となれば奇蹟は神が作るものであり、人間の力では一個の奇蹟も作れないからである。故に奇蹟のない宗教は宗教としての存在価値はない訳である。ただ形式だけが如何に宗教的であっても、それは宗教的価値を喪失していると言つてもいい。以上の意味において、偉大なる宗教程奇蹟が多く顕れる事は当然である。奇蹟とは、換言すれば予期もしなかった利益が現れる事である。それによって裏から信仰心が湧き入信し不幸から救われる。これが真の宗教でなくして何であらう。(中略)人文学上、本教位奇蹟の多い宗教はまだ見聞した事は無いまい。この意味において世界の一大転換期に當つて、唯心の魂を喪失した世界に對し奇蹟の息吹きによって、眠れた魂を揺り動かすのが本教の目的である。

次号では、この科学との接点より出発して、宗教と科学以上の真理の表われとしての浄霊について、更に皆様と共に考えさせていただきたいと思つて居ります。誰でもがお取次ぎさせていただけるのが浄霊であります。もし、「明主様に對する信仰」「御教えに基づく信仰」が確立せずして、自己流に浄霊を考へるようになった時には、ここに重大な危険を生ずることを私は、しっかりとつかませていただけないならばならないと思ひます。

「万能の神は、観世音菩薩又の御名光明如來の御手を通して、自由無碍なる御活力を賜はれ、多々益々奇蹟を示し給ひ、本教を機関として、救世の大業を行なせ給ひつゝあるのである」(案12)と、仰しやうて居られます。

「(1) 誰にでも実行出来ること。」「選ばれた特殊な人一般は思うであろうが、決してそうではない。如何なる人間といえどもこの方法を学ぶ事によって、簡単に実行し得るものである」(地4)「(2) 修業は要らないこと。」「修業は要らないです。ただ、三日とか五日一教修という、話を聞くだけで御守りをおかけたら治るんです」(案18)「(3) 疑つていてもいいこと。」「最初から神を否定して、何程疑つても必ず奇蹟が起るのだから。(中略)疑ぐり抜いても効果には変わりない」(「奇蹟とは何ぞや」)右の三つの御教えからも、私共は浄霊が宗教と科学以上の真理の表われであり、無神思想の人々を救ふんとされる神様の愛の発露であることが分るに違いないのであります。この神様の御心に私共が甘んじたい、この段階以上に「浄霊」のもつ意義をつかましているたく努力を怠り、私共はこの御力のお取次ぎをお許し下さった神様の御心にお応えする努力もせず、単なる病氣治しか、一種の精神療法程度にしか理解しないという様なことは厳に許さず、つまみづけてはならないのは勿論であります。

「(31) とお説きいただいたて居ります。ここに、浄霊による奇蹟と今日までの宗教による奇蹟との間に本質的な違いを見出すことができるのではないかとと思ひます。先号でも、申しましたように、浄霊は宗教と科学以上の真理の表われであって、而も科学との接点をも兼ね備えて居り、唯物科学の人々でさえその力にふさわしいと、神様の存在を認識出来る可能性をもっているわけであります。即ち、

病氣に淨靈の御守護

までには治してゐない」と頼頭を
 をしていました。神様は最初から
 ちやうど二面に合うようにしてごま
 ざつていたのをいれませんでした。そ
 れを草津はお願ひをされた翌日と
 り、もっと早い、途中の段間で、
 治るのだから、それとちやうど
 いのちをうけて、いらいらしな
 ら、心配してゐたのです。取り極
 し、断らずといふのです。取の極
 の様な血脈な鋭守護を頂いて
 あります。今度の場合は、

たった一週間で手足が自由に

じで幼稚園入園前であったと、しかも両方きりぎりまで毒素を出して頂き、少しでも健康に近づかせて頂いたこと、簡三は、どちら人も入園まわりの、きわどい時点を治してくださった二等である。神様はその任にもない確信で、最速を遂げてくださったといふことがたまらなくありがたかったです。

のうに替わる今日の姿、あまりにも大きな御守護を頂かれ、只々大神様に御礼申し上げるばかりです。無事既許りを蒙られ、喜び勇んで帰られました。

再浄化の父救わる

山本 小夜子

りな、朝の禮を頂き、喜びの毎日
を明かして居ておりました。
よき人に入信以來四か月に初め
て入歸のお喜みを頂きまふと
上白石よねのことゝ發表さ
せられました。

白根は四年間より中絶に
て、寂たかりし生活で、一人息子
一の城塚と偏愛片づいて娘さん
の為人が、交臂する日の御世話を
と仰れられた。教へたる八月
二十日の御教目日、教会へ参
拝された時は、足はさせず行動が

慰えられ、引すれぬ様にして
御師にお尋ねされ、御神樂堂
れた、日目の御教受は受けられ
した。ところが白根は思ひも
んなら送つてくれました。

は自動車が新く買きて、暇は
手先を弄つて来ましたが、白
根は思ふ心の弱うからふと、自
人で歩ますからハンドバック
を持持つといふのと云々、
目はホリ、ソノ口とながら
が歩かれました。ソツトになり
つて御神樂堂送りされました。

た「今日は仮装が出るので、
に寄りまして」「部屋のせりや
う、あつち、こち仮い装が出る
来ま」「今日はこち持ない
で飾の真中並切れる様になり
また」「男と女買つて平く
なると、魚の仕度が出来た
カが、片手で下られます」
と、毎日の様な朝は聞かれま
す。でも始めの朝は、足は子
でして、見てる方が危な、
と上りましたが、一週目に

私が初めてしていたら、家庭的にもあり假かではあるんだけれど、そんな時、父の浄化室通して救済を教えたいたさした、即浄化室だいたいたさしたに魂を縛っていただけなのだよ。宗教対して何等関心ないという状態であつた私が正直におりて来がせたいなぞ、感謝のあまり胸がふつふつと、感涙し出し、うそと聴かぬに何願もせず、うそでいたるうち、入居してていたいた趣味、使向、御用を

せて、なぐとこの大切を教へてゐた。さうして、

仕事をする後の自分の時間を
自分だけのことに使うか、この素
明し御用に使へないか、なぐ
な、それは自分自身で決まらね
に立るな、と思つて、私もお役
ある日、先生が、今日は先生があ
るのよ、ね、ね、ね、と、いい
え、聞かすやうにしまし、また
こゝろへ、こゝろへ、と、聞か
大變なことになるやうな気がし
ました。その時、い、い、い、と、

「その時の用が、私が一人入らせてあげた初めの二日間です。」「ライドの知識をもっとなく、このたの知識をいけなげ感謝してこそ生懸命させていかなうといふ私、それだけでは。そうしなくては専断で御用を待てないというおとしやつていたのだと、私は御用をさせたいかぐべ溺念のかかと思いました。」

「御用に承せていかにしては」

「父が再浄化をいただき、会社の都合上医務の診療を受けることになりました。」

て、この期間こそ明主様が私の
使命を遂げようとする転機に
なすべく、何れとも勢え難い素晴らしい五年
間、勇ましく胸にせまひ、涙あふ
る幸福な今日でございます。

また今年は、救世主明主様の
御神託を聞き守り上げられていた
なかたに、立ち上がったとき
は戦機の時、直腹の場においていた
のです。これからは、どんどんヒー
ドアップされるであろう御用國

加畑 富喜雄

[illegible]

学生参拝日の御報告

[illegible]

法然院参拝と研鑽



影の会長の生のお話を聞く。先生
の学生時代に法院での記録
の大きな奇蹟（？）と云ふ秘話
が聞かされた。その友達が卒業
で帰つたがたがたな奇蹟見
せていた。先生は、
このあたに私事と同じ秘話の者
でも、大奇蹟を望んでいたに
いる、といふとは、苦しい
の友達、即座を待てないだけ
れば、半朝守衛をいたけるの
ではないといふか。
このあつた二昨年、昨年の生誕
会成のハロウィスに夢中にな
つたやと聞かされた。
今、教会が草太天国設へ即
教化に基く純粋信望の歩み
を初められたといふ。この道に
沿ひ、この身体を有る限に過

吉田 永子

あけるとおっしゃって頂きました。大変側面神秘だから手回を
しなくても済むでしようといわ
れ、まさか悪いながら、あまり
毎日の病院に通い、いやになっ
ておりましたのとおっしゃまし
た。

そして師匠達を受け、その後
日大で学んで頂いてあり、お家
事もあり手先の夜わたしの家
でお願ひしました。

はたしておぼろげで、**ガン**の診断
を受けました。食事も通らず、チ
コレート様のお薬はいて、骨
皮がけにたけのこのお湯をききま
しました。でも信以来数々の御
薬をいたがきながら充分な調用

「先生、先生のことも一所懸命なされて、いなかきたいと願います。明王様、数々の御守護ありがとうございます。敵力ながらいつまでも御用のお許しがいたなげます。つづお願ひ申し上げます。」

耳の周囲赤くはひびがてきまし
た。非常な暑さであり、狂走
びに気がまぎれてわたりますが、経
ぬわつてからは無量のうちを京
りなりと歩いてしまふ。朝に
より熱あを帯る二日間ものう
けになり、思はず自愛むけるや
な状態だ。

四月は新緑の國の國がまっ
つていまして、それまではな
んとか中てゐるやう、神様
にお願ひして、持合せといふし
かし、入道式参事と改日しま
ないと言つて、一回に拍子う

入道の問答に迫つた題目、私
なども半ば知らぬ、もんどこ
でなくなつたといふ、種々な事
となつた時だつた。なぜならそ
供の頭を見ても、「三日前ま
す」こともおぼろかに覚えてい
見えた履装束から見ていてい
ではありまんか、そして入道
り寄りには先づに悔へ加ふるま
だ。誇りがいへばトドした。何れ
何れの變化がはつきりわかち

私達は、どうかすが入道する

生野氏は、御前院議員、会長先生の御指導をうけたたけで、明主と自然に語つて、「四國銀行」の御論文を投稿したまゝでした。

「時計は十二時なので急ぎ足然殿へう書法上人が来華したと言ふ等々事をつげたら、此者数日か待てといひ、私は今日親京京都の参事をえ一席并してある。随つて下任職の案内此等の時々に親観が、古くとはいふ仲々莫なる等々と

「教には知りなした私願は、疑義を突くゝいたなき、午後一時十分、会長様から明主様の延びる御文の遺書を約、時間余りなりました。」

「私学生は、とやれば日常習問即主様の御教き應じ得機が今々、拙稿のご意見を賜ふ所解り申ちて、明主様の不承の不承の

明主様の
注

御跡たずね
仏然院参拜
心が渾とんどつかめていない
一に思ひます。御浄土に自に宛
て御守護をいたして下さる私
が、御浄土とは何か、なぜ私達
御守護をいたさなければなら
ないか、私達
御守護様をいたさないのはど
ういふことを意味するのか、な
どとつかめて、ないといふ
ことは非常におかしいです。

て

井と研鑽

達は御神書を読んで、先づ御書
などを聞きながら字はねばらな
いと思ひます。そういう意味で
は、これは御神書に大きなアス
です。

御教を研鑽し、私達 仲間
に発表が行われたい。これ
は私達と同じ世代、環境の中

間、本職したものであるので、大要略が述べた。〇さん(十歳)は「お寺」で、お寺にお参りし、御守を頂いて、御守を身につけ、御守を身につけていた」と、Yさん(十六歳・高校生)は、「自分の浄化堂御神像として、自分だけの喜び、また教会堂御用をさせてもらったときの感懐から町での布教会を通して、神様はいかにある場所でも御守護されるのだ」との体験、Z君(二十歳・大学生)は、「神様を信じきれなかったときに、大学の友達と別れて浄土部御取次室としていた」とい

けるようにお願いをめた学生
 参拝する、このことに充たした
 のでありません。非特うたて
 れしいことでした。つきは学生
 健全な心と勇気の向上をはかる
 場があらわれたいです。
 一日も早く地上天国を
 人類救済の道に導く学生の手
 だ。
 私は手金とあらあつて、共に師
 教を学ぶ、共に人類救済に向つ
 て進めたいと願ひます。
 同様の御指導に感謝申し上げます。

三人の子持ちですが、一番初めの子供を帝王切開で出産しました。子供二人とも同じく帝王切開で出産されました。二度の手術の間、一度一度手術の回数が増えるたびに胸が重くなってしまふ、三人目の子供が、八か月目のころ、三人目の手術のうしろのうしろで、もう一度手術を受けなければならぬ医師にいわれおりましたが、そのとき子供達がまだ、毎日病院でのあけくまで、大塚さんには会えんぞと泣き返してしまつたところ、ご自分の行

そして三か月後病院へ行きまし
たらなんと医師から新妻が小さ
なつてもう手術の心配は無いとい
うので、一晩の半ば、また医師と見聞
し合ひたのではないかと疑がっ
て居りました。その時は本當に感し
て愛する人のごといておりました
が、昔時そんな不潔なことがあ
るはずはないといつて本當にして
居たので、有り様です。早速お寺
様にお参り致して頂きますた。子
供は産む時機も違ひます。本當
に有難いと思つて頂きます。明玉様
有難うございました。

